ベトナムにおける臨床薬剤師を介して行う服薬支援ツールを用いた医薬品適正使用の推進プロジェクト

2020年3月10日

日本製薬工業協会
国際委員会グローバルヘルス部会

日本製薬工業協会が実施したベトナムにおける医薬品の適正使用推進事業についてご報告します。

事業名：ベトナムにおける臨床薬剤師を介して行う服薬支援ツールを用いた医薬品適正使用の推進プロジェクト
実施主体：日本製薬工業協会
対象国：ベトナム
対象医療技術等：① 抗糖尿病薬の使い方を含む糖尿病ガイドブックおよび医薬品の使用ガイド＋②臨床薬剤師による服薬指導＋④医薬品の適正使用等

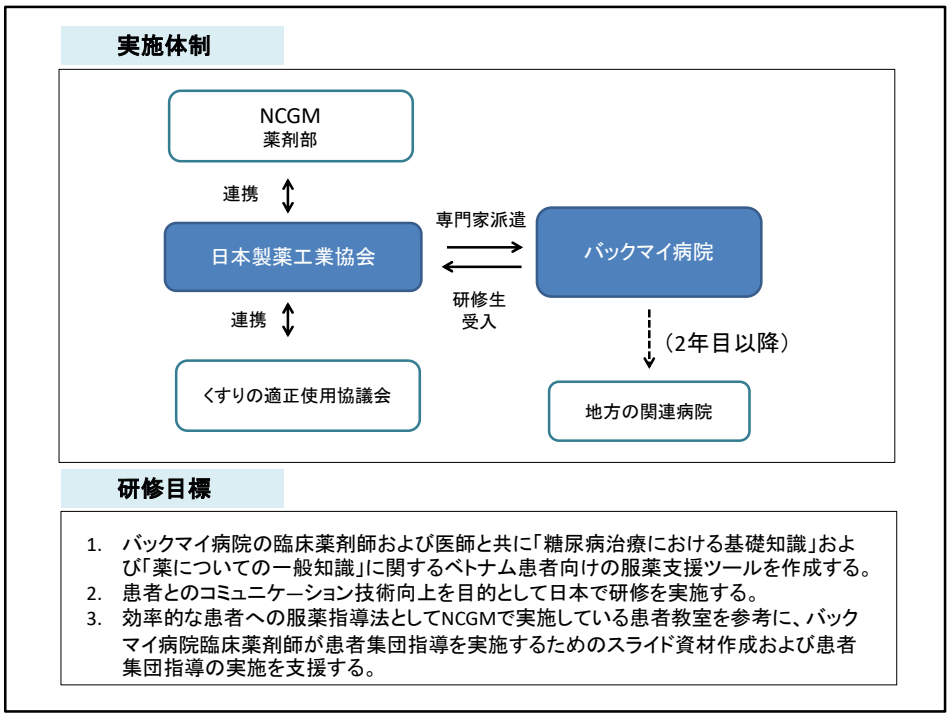
事業の背景

- ベトナムの病院薬剤師業務は、その多くが日常の薬剤払い出しや医師への医薬品情報の提供に留まっており、患者に対する直接的な服薬指導の必要性が認識されてきている。
- 日本ではチーム医療の一員として、薬剤師が患者と密にコミュニケーションをとりながら服薬指導が実施されており、患者向けの薬剤や疾患に対する説明資材も豊富にある。本事業では製薬協とNCGM薬剤部が連携し、ベトナムの患者のための服薬支援ツール作成をサポートする。
- ベトナムで、臨床薬剤師による患者向けの服薬指導を導入することで、医薬品の適正使用を推進し、現地の医療水準向上に貢献する 。

事業の目的

製薬協およびNCGM・薬剤部が有する「患者目線に立った服薬指導のノウハウ・経験」をバックマイ病院の臨床薬剤師に伝達することで、効率的かつ効果的に患者への服薬指導を行い、ベトナムで医薬品が適正に使用される医療環境の改善を目指す

まず、本事業の背景ですが、ベトナムにおいては処方される薬について、患者さんへの情報提供が著しく不足しており、また患者さんへの服薬指導も医療従事者のマンパワー不足から十分になされていない現状があります。
我々は、この状況を改善すべく、製薬企業やその関連団体が作成している疾患や薬剤に関する日本の患者さん向けの説明資料をベトナムの患者さん向けにカスタマイズを行い、さらに、薬の専門家である臨床薬剤師により、集団型の患者服薬指導を行うことで多忙な医師や看護師の負担を軽減させ、ベトナムで医薬品が適正に使用される医療環境の向上を目指すこととしました。



具体的には、NCGM薬剤部の先生方とハノイにあるバックマイ病院と協力し、「糖尿病治療における基礎知識」と「薬についての一般知識」という二種類の服薬支援ツールを作成しました。また、患者とのコミュニケーション技術の向上を目的として、NCGMで実施している患者教室を見学いただくとともに、バックマイ病院の臨床薬剤師が服薬指導を行うためのスライド作成や患者集団指導が実施できるように、日本でも研修を行いました。

さらに、服薬支援ツールの出来具合や臨床薬剤師による服薬指導の適切性については、患者さん自身に評価を実施してもらうべく、アンケート調査票を作成し、そのアンケート結果から最終的な研修効果を判断することとしました。

1年間の事業内容

2019年	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
日本人専門家の派遣（人数、期間）				NCGM 3人 JPMA 6人（自費渡航含む） 5日間					NCGM 4人 JPMA 8人（自費渡航含む） 5日間	
海外研修生の受入（人数、期間）						BMH 2人 5日間				
研修内容			◎	・臨床薬剤師業務・入院病棟を含む研修環境の視察 ・現地の教育資材確認 ・作成予定資材のすり合わせ		・患者指導のための資材作成 ・患者評価の調査票作成 ・NCGM患者教室視察 ・患者コミュニケーション研修			・バックマイ病院での患者指導の実施状況の確認 ・作成した資材に関する使用後の改善すべき事項、要望点の抽出 ・作成した資材に関し、地方病院での実用性等の確認	

◎ 7/26付 2019年度医療技術等国際展開推進事業 事業委託契約締結

この1年間の活動スケジュールを示します。ベトナムでの実地研修は8月と1月に2回、日本での研修は10月とし、計3回の研修を行いました。また、1月の研修では、バックマイ病院の他、2020年度の活動も念頭に、今回作成した服薬支援ツールの実用性等について、別の医療機関の意見も確認すべく、ベトナム北部の地方病院2施設を訪問しました。



これは実際の研修の様子です。

この1年間の成果指標とその結果

	アウトプット指標	アウトカム指標	インパクト指標
実施前の計画（具体的な数値を記載）	① 服薬支援ツールとしての患者向け「薬についての一般知識」、「糖尿病治療における基礎知識」資材完成数および臨床薬剤師による患者集団指導用のスライド資材の作成数 2種類以上 ② 臨床薬剤師、医師への研修を実施、およびその研修参加人数 2名以上 ③ 患者集団指導を実施した臨床薬剤師の人数 1名以上	① 入院患者に対して提供される服薬支援ツールの患者評価 ② 医師との連携のもとに行う患者集団指導の開催回数 1回以上 ③ 患者集団指導を受けた入院患者数 20名以上（トータル） ④ 患者集団指導時の臨床薬剤師による服薬指導に対する患者の満足度：5段階調査の4以上割合が50%以上 ⑤ 患者集団指導後の患者の薬に対する理解度：薬剤の効果や副作用等への理解度を3段階評価および受講後の理解度確認 （①、③、④、⑤はアンケート集計による）	① ベトナムにおいて患者に服薬指導を行える臨床薬剤師養成の中核病院が整備される ② バックマイ病院において患者視点にたった服薬指導の重要性が認識され、定常的に薬剤師による服薬指導が実施される。
実施後の結果（具体的な数値を記載）	① 患者向け服薬支援ツール2種類および臨床薬剤師による患者集団指導用のスライド資材1種類の計3種類を作成 ② 医師1名および臨床薬剤師1名の計2名に対して研修を実施 ③ 研修受講生である臨床薬剤師1名が患者集団指導を実施	① 服薬支援ツールである「薬についての一般知識」および「糖尿病治療における基礎知識」を読んだ患者に対して、当該ツールを今後どのように使用したいか？という質問に対し、「いつも持ち歩きたい」「薬と一緒に袋に入れておく」「家の中の決めた場所に置いておく」のいずれかを選択した回答が2つの支援ツールともに80%以上 ② 4回実施 ③ 患者集団指導を受けた入院患者は40名 ④ 5段階調査の4以上の割合は98% ⑤ 患者集団指導後に理解度に関する全ての項目において「指導前に比べてより理解できた」と回答した患者が85%以上	① ベトナム北部の中核病院であるバックマイ病院において臨床薬剤師による初めての患者集団指導が行われたことにより、臨床薬剤師を養成する中核病院の整備が開始された。 ② 臨床薬剤師による服薬指導が評価され、今後も継続して実施されることを確認した。また、2回目(最終)の現地研修で実施した小セミナーにおいて、バックマイ病院および関連機関の医療関係者に対し、当該研修事業の成果が報告され、臨床薬剤師による服薬指導の重要性が認識された。

この1年間の成果を纏めますと、ベトナムの患者さん向けに配布する資材を2種類および臨床薬剤師による患者集団指導用のスライド資材を1種類、計3種類の服薬支援ツールを作成することができました。また、バックマイ病院では、これまで患者さんへ直接的な服薬指導を行っていなかった臨床薬剤師さんが、集団指導の形で新たな業務を開始し、今後も継続して実施されることになったのはこの研修の大きな成果であると考えています。

さらに、患者アンケート調査の結果ですが、作成した服薬支援ツール「糖尿病治療における基礎知識」と「薬についての一般知識」を読んだ患者さんに対して、当該ツールを今後どのように使用したいかという質問に対しては、「いつも持ち歩きたい」「薬と一緒に袋に入れておく」「家の中の決めた場所に置いておく」のいずれかを選択した回答が80%以上でした。
また、臨床薬剤師の服薬指導に対する満足度は98%と大変高いものであり、薬の効果や副作用等に関する患者さんの理解度に関しては、全ての項目において「指導前に比べてより理解できた」と回答した方が85%以上と多数を占めました（n＝40）。
さらに、今回の研修の中で、バックマイ病院とその関連機関の医療関係者70名ほどを対象に糖尿病小セミナーを開催し、当該研修事業の内容を紹介しました。このセミナーを通じて、臨床薬剤師による服薬指導の重要性が認識され、本研修の意義を確認できたことは我々にとってこの活動を継続する大きな励みになります。

今年度の成果（事業が複数年継続している場合は、各年度の成果を含めて下さい）

① 患者向け服薬支援ツール（糖尿病の基礎知識および医薬品の一般知識に関する2種類のガイドブック、患者集団指導用の薬物療法に関するスライド）を作成した。
② 臨床薬剤師による患者集団指導が開始された。
③ 患者アンケートを通じ、作成した服薬支援ツールは好評であり、患者のみならず、地方の医療機関からも活用したいとの意見を確認できた。
④ また、臨床薬剤師の服薬指導も分かり易かった、薬に対して正しい理解が進んだという患者の意見も確認できた。

今後の課題

今後は、作成した服薬支援ツールを活用し、バックマイ病院から地方の病院へ、臨床薬剤師による患者服薬指導を広く展開して行く方針である。

1. 研修の習熟度を確認するための研修生の評価方法
2. 中央病院であるバックマイ病院と地方病院では、採用されている薬剤や使用される薬剤の種類等が異なることから、資材の地方向けカスタマイズ
3. 患者によるアンケート評価内容の改善
4. 作成した服薬支援ツールの継続使用に向けた方策

今後も、NCGM薬剤部やバックマイ病院と協力して、服薬指導ができる臨床薬剤師を継続して育成するとともに、中央病院から地方病院へと、臨床薬剤師による集団服薬指導が広く実施されるよう、エリアを拡大して行く予定です。今回、候補施設として考えているベトナム北部にある地方病院を訪問し、病院長や薬剤部長らと意見交換を行いましたが、医療の中で臨床薬剤師の果たす役割への期待の大きさや、日本との研修を通じて病院機能の向上を図りたいという強い思いを確認できました。一方で、地方研修生のレベルにあった患者服薬指導の習熟度についての評価方法や、バックマイ病院と地方病院との間には採用されている抗糖尿病薬の種類や数も異なることなどを踏まえながら、患者アンケートの内容や服薬支援ツールの改良等、地方病院に適した実施方法を検討していくこと、そして作成した服薬支援ツールをどうすれば継続して使用してもらえるかといったところが今後の課題です。

現在までの相手国へのインパクト

医療技術・機器の国際展開における事業インパクト

- 日本で使用されている患者用服薬支援ツール（糖尿病の基礎知識および医薬品の一般知識に関する2種類のガイドブック、NCGMの糖尿病患者教室で使用されていたスライド）をベースに、ベトナム患者向け資料を作成。本資料が糖尿病入院患者に配布された。
- バックマイ病院内分泌病棟において、これまで糖尿病の薬物治療に関する服薬指導は、看護師により行われていたところ、薬のエキスパートである臨床薬剤師により、集団患者指導が行われることになった。

健康向上における事業インパクト

- 日本の患者目線に立った服薬指導のノウハウ・経験の伝承：本邦での研修　2名、現地セミナー参加者数　70名
- 1年間で配布される患者向け資材の数：各300　部
- 臨床薬剤師の集団患者指導では患者への問いかけや患者からの質問もありinteractiveなものであった。集団患者指導に参加した患者からは、薬に対して正しい理解が進んだというコメントも確認できた。



以上、纏めますと、この研修事業のインパクトとして、日本で使用されている患者服薬支援ツールをベトナムの患者さん向けに作成ならびに提供し、さらに臨床薬剤師さんによる集団患者服薬指導が実施されることとなりました。

また、日本の服薬指導のノウハウや経験を伝承することで、集団患者指導における患者とのコミュニケーションもスムーズに行われていることを確認でき、集団患者指導に参加した患者さんからは薬に対して正しい理解が進んだというコメントも確認できました。

展開推進事業の目的に照らして、将来の事業計画が見込まれれば記載して下さい。
「我が国の医療制度に関する知見・経験の共有、医療技術の移転や高品質な日本の医薬品、医療機器の国際展開を推進し、日本の医療分野の成長を促進しつつ、相手国の公衆衛生水準及び医療水準の向上に貢献することで、国際社会における日本の信頼を高めることによって、日本及び途上国等の双方にとって、好循環をもたらす。」

事業のインパクト(医療技術移転の定着、持続的な医療機器・医薬品調達)につながるように事業の展望を具体的に描いてください（自由形式）。

研修導入 → 薬剤師による服薬指導の意義、服薬指導ツール、患者のとのコミュニケーションスキルがバックマイ病院を中心としてベトナム北部の他病院に普及、ベトナム広域においても患者視点にたった服薬指導が開始される → 薬剤師による服薬指導の促進により、患者の服薬アドヒアランスの向上および副作用に対する理解が高まることで、介入対象疾患における治療成績の向上および治療脱落者の減少、副作用の早期発見症例の増加が期待される。

さらに、こうした取り組みがベトナム医療機関側で評価され、日本製薬企業への信頼が高まり、日本製品の導入数が増加することにも期待したい。

将来的な展望ですが、まずは本研修を通じて、臨床薬剤師による服薬指導の意義や重要性が理解され、バックマイ病院を中心として、集団型の服薬指導がベトナム北部の他病院に普及・定着することに期待します。さらには、ベトナムのより広域に亘り、患者視点に立った服薬指導の導入に繋がることを目指します。
その結果、患者の服薬アドヒアランスが向上したり、副作用に対する理解が高まることで、介入対象疾患における治療成績の向上したり、治療脱落者が減少し、副作用の早期発見症例の増加につながることに期待したいと思います。
さらには、我々製薬企業による取り組みがベトナム医療機関側に評価され、日本の製薬企業への信頼が高まり、日本オリジンの医薬品数が増加することを期待します。